



夢は、
姉妹デビュー

ふじわら ももこ 藤原百子さん

現在 東京音楽大学ピアノ科3年(水戸三高音楽科卒)
第2回J-VIC日本声楽器楽コンクールピアノ部門第3位(1・2位なし)
第7回茨城県学生ピアノコンクールE部門最優秀賞
第9回茨城県学生ピアノコンクールF部門最優秀賞
平成18年度茨城県芸術祭「県民コンサート」特賞

11月18日(土)、つくばノバホールにおいて県民コンサート(茨城県芸術祭が開催されました。この中で、最高の賞である特賞を藤原百子さん(繁昌)が受賞。11月23日、藤原さんが両宿の『さかい』ホールにおいて「若い芽のコンサート」を開催されたので、そこで独占インタビューを行いました。

小さな函車『さかい』ホールでの「若い芽のコンサート」はいつから始まったのですか？

このホールは、大学一年生の時に祖父が建ててくれ、完成を祝って身内だけでお披露目コンサートをしたのが始まりです。
翌年は友人や後輩も呼んで、一緒に演奏を披露し、今年も引き続き三回目を迎えることができました。

今回、特賞を受賞された感想は？

演奏したシヨパンの「舟歌」は、高校生のときから憧れの曲で、本当は高校卒業のときに弾きたかったのです。でも当時は受験向きでなかったの

と、曲が内容的に無理だったので諦めるしかなかったのですが、今回、県民コンサートとしてノバホールで演奏でき、さらに賞もいただいで、とても嬉しく思います。

芸術祭に向けた練習は、いつから始めましたか？

恥ずかしながら二ヶ月前からです。まだまだ弾き込みが足りないのですが、今後この曲を練習していきたいと思っています。

この「舟歌」はシヨパン晩年の作品で、病に倒れた上に恋人との別れがあった、辛い孤独な時期に作曲されたのですが、それを少しも感じさせないほどに美しい旋律で、聴く人の心を癒す曲となっています。



友人や後輩も参加した「若い芽のコンサート」
(右から一番目が妹さんです)

ピアノを習い始めたのは、いつですか？

3歳のときです。祖母が60歳からピアノ教室に通い始め、私も連れて行ってくれたのが始まりです。教室の部屋が丸太作りだったので、ピアノよりも丸太小屋に行けることが楽しみだったのを覚えています。

幼稚園のときは、お昼休みに先生がオルガンを弾かせてくれ、毎日がミニコンサートのようにでした。



ピアノを続けたいと思っ
たきっかけは何ですか？

ピアノを指導してくれた先生のように、自分も弾けるようになりたいと思ったことです。先生は、水戸三高、東京音楽大学を卒業されていたので、私も小学生高学年のときから、水戸三高を目指して練習に励みました。

練習は毎日何時間ですか？

受験を控えていた時は、毎日5〜6時間練習していました。

将来はどのような活動を
していきたいと思えますか？

ピアノを弾いているときが一番楽しいので、演奏家として活動しながら、ピアノの指導をしていきたいと思えます。今は学生(池袋の東京音楽大学在学)なので東京に住んでいますが、土日は地元に戻って来られる距離なので、ここで教室を開いてみたいと思っています。

また、妹も水戸三高に入り、ピアノを専攻していますので、将来は姉妹コンサートを聞き、連弾するのが夢です。